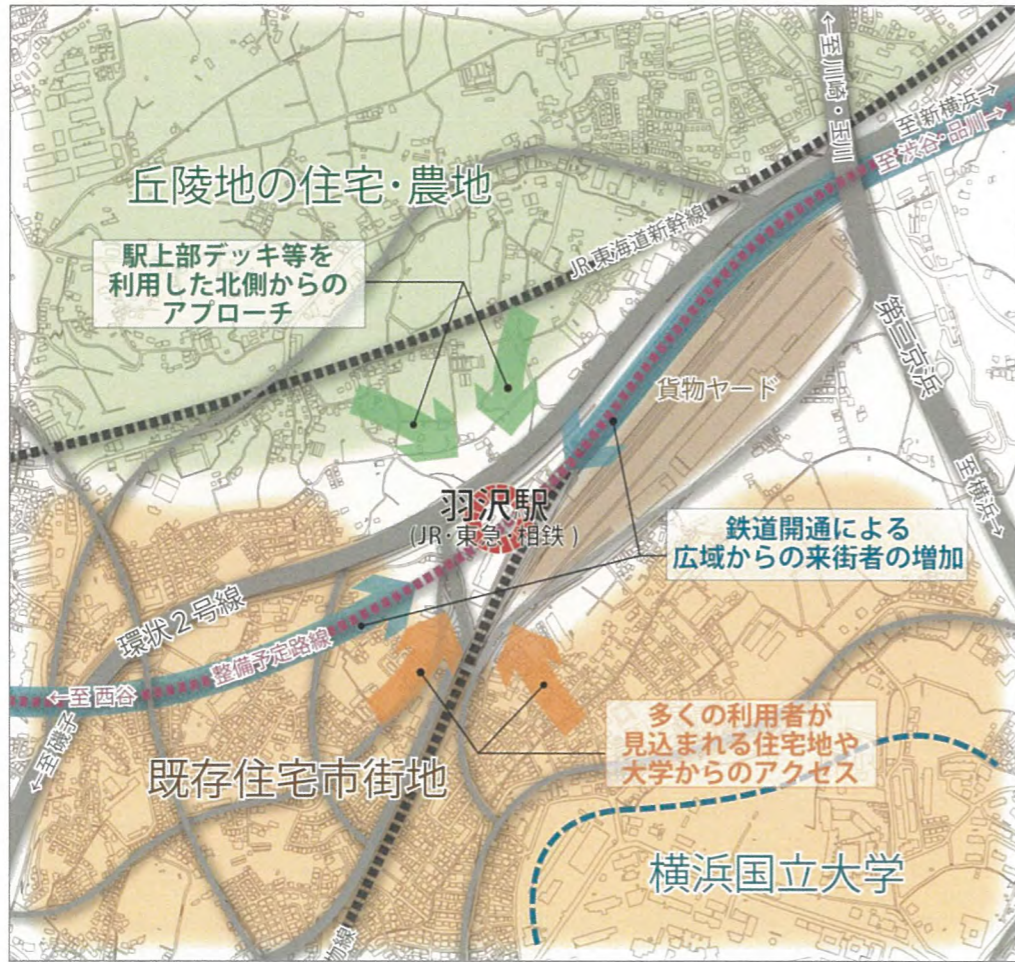


2-1 計画における景観特性と方針の整理

● 新たな人の流れを形成する空間整備の必要性

計画地周辺では北側丘陵地には豊かな農地、南側は落ち着いた低層の住宅街が広がっており、さらに横浜国立大学のキャンパスが徒歩圏にある。新駅開業に伴ってこれら周辺からの最寄駅として人が集約することとなり、まちの玄関口として多様な人々を受け入れ、にぎわいと交流が図れる地域のシンボリックな空間整備が求められる。



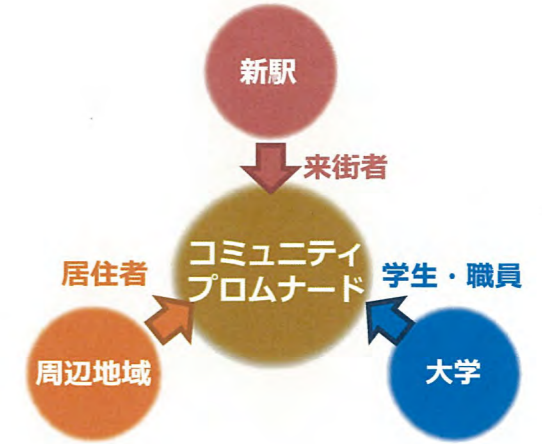
● 周辺の地形や環境に配慮した空間づくりの必要性

計画地は周辺を丘陵地(農地や住宅地)に囲まれた南北方向の谷状の低地に位置している。周辺は目立った高層建物はほとんどなく、周りの丘陵地から見て当地区は一望しやすい位置に立地している。このような地形の特徴を踏まえ、地域の活性化を牽引するシンボリックな空間であるとともに、周辺の自然あふれる環境と調和した空間づくりが求められる。

< 景観整備の方針 >

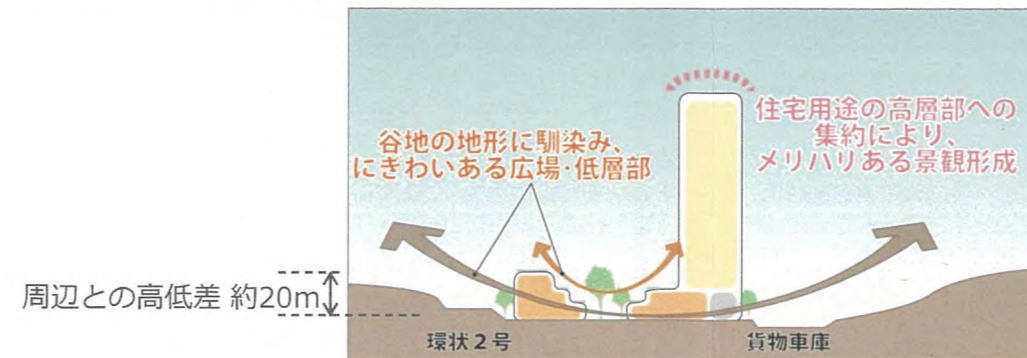
○ 地域のにぎわいと交流の軸となる「コミュニティプロムナード」の形成

- ◆ 地区内の各敷地が連携しあいながら、駅と周辺地域をつなぐ地域のにぎわいと交流の拠点となる広場空間を形成
- ◆ 居住者、来街者、学生等がふれあいながら多様なまちの活動シーンを創出
- ◆ プロムナードに沿って商業等のにぎわいが展開し一体的な賑わいの形成



○ 歩行者目線の空間づくりと拠点らしさを併せ持つ景観の形成

- ◆ 丘陵地に囲まれた谷地において周辺からの駅前への人の流れを引き込み、低層部を中心に歩行者目線での一体性・開放性のある景観を創出
- ◆ 併せて高層部においては、新横浜都心における新しい駅前拠点として遠方からも認識されやすいメリハリのある景観を形成



○ 自然を感じる緑の空間づくり

- ◆ 人々が憩うことができる緑の空間づくり
- ◆ 地域の豊かな自然環境を象徴する、低層部を中心とした緑あふれる駅前空間を整備



2-2 施設配置の考え方

- 土地区画整理事業による敷地の整序化、駅アクセス用地の確保等を図りつつ、各敷地が連携しあいながら、新たな駅前空間を創出
- 駅と既存公園とをつなぐプロムナード空間を軸に、それを挟む形で建物等を配置
- プロムナード等に面して店舗等を積極的に配置し、各敷地が連携しながら一体的なにぎわいの創出と潤いあふれる憩いの空間を形成
- 建物低層部においては、駅前立地を活かし地域生活を支える商業・生活サポート施設を導入
- 地域のランドマークを担う高層建物上部では、都市型住宅を集約的に整備
- コミュニティプロムナードや駅前の広場等は、日常的な歩行者空間とともに、イベントの開催等、地域交流の場としての中心的な役割を担う

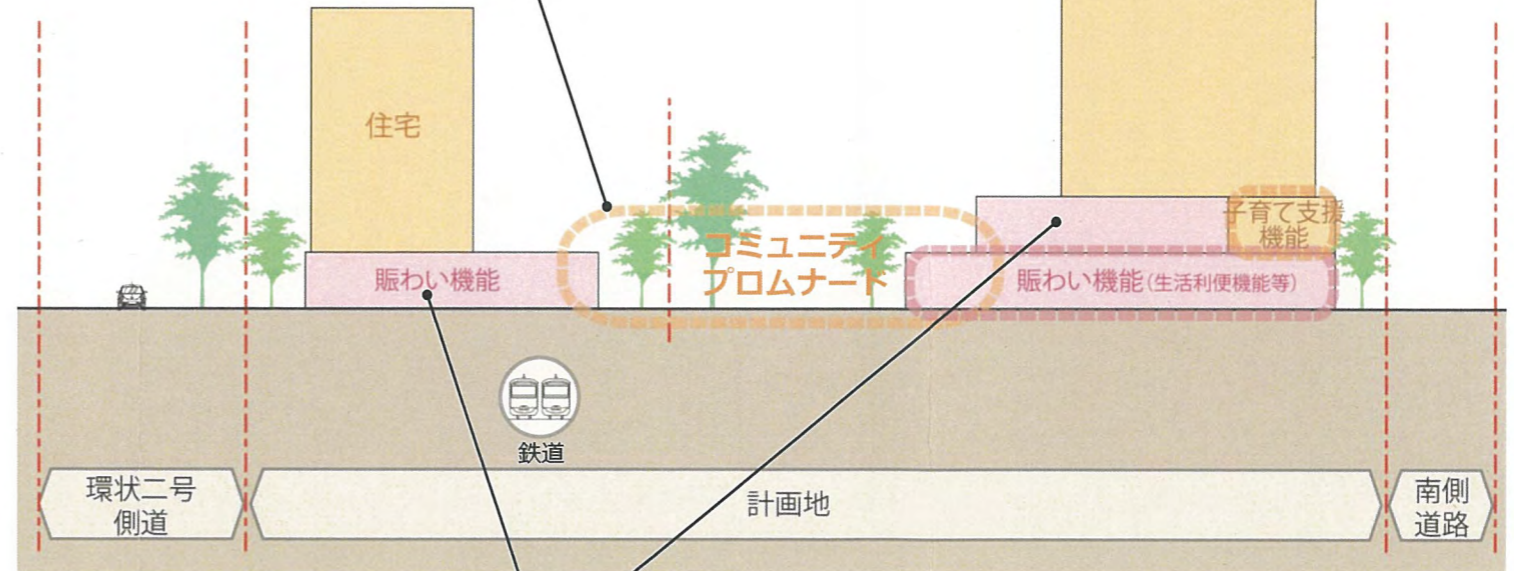
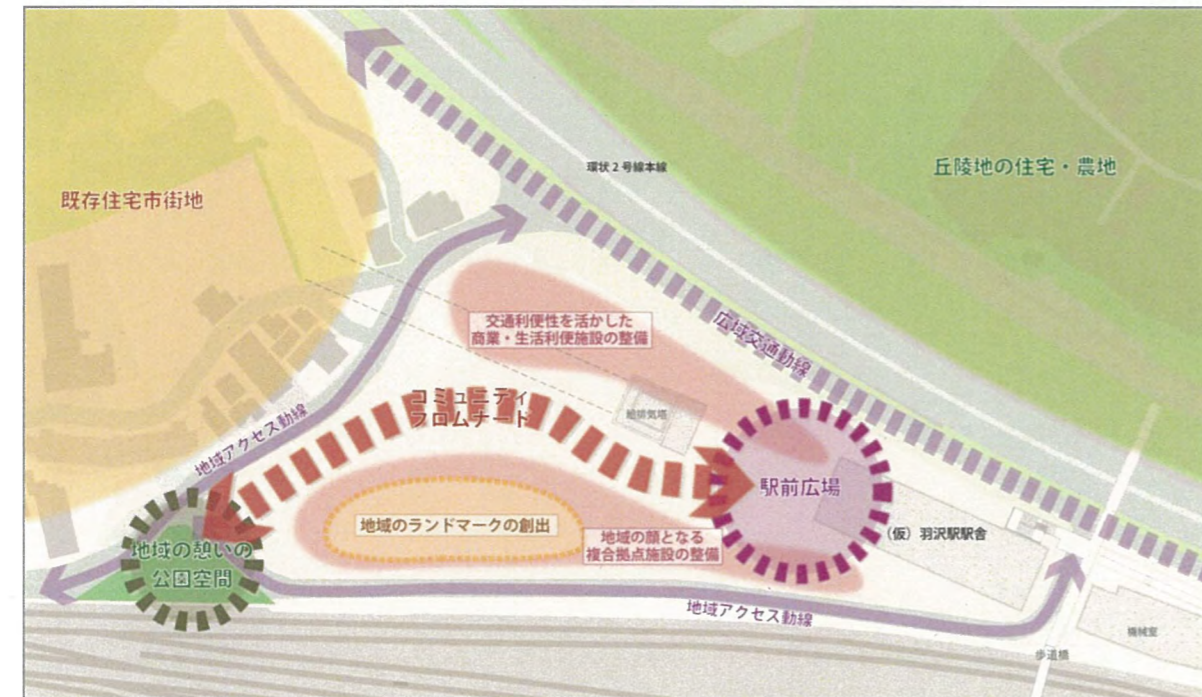
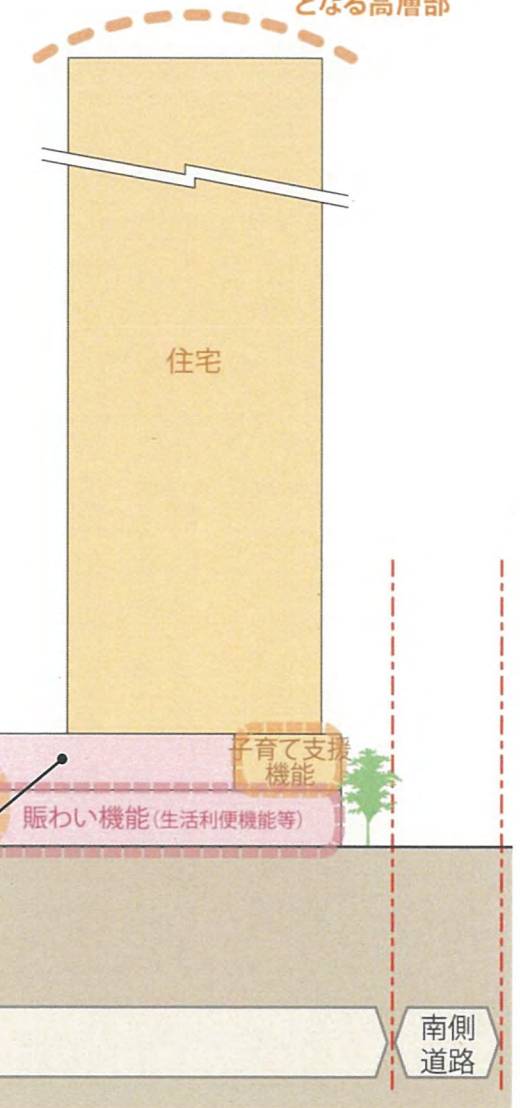
各敷地が連携した一体的なオープンスペースの創出



駅前での潤いあふれる憩いの空間

店舗等が並ぶにぎわい空間

地域のランドマークとなる高層部



地域の連携による様々なタウンマネジメント活動



広場等を活用したマルシェ等の開催

地域住民の農業体験

イキバケーションカフェやチャレンジショップ

駅前立地を活かし地域生活を支える施設の整備



スーパーマーケットなどの生活利便施設の導入

多様な生活スタイルに対応する子育て支援機能

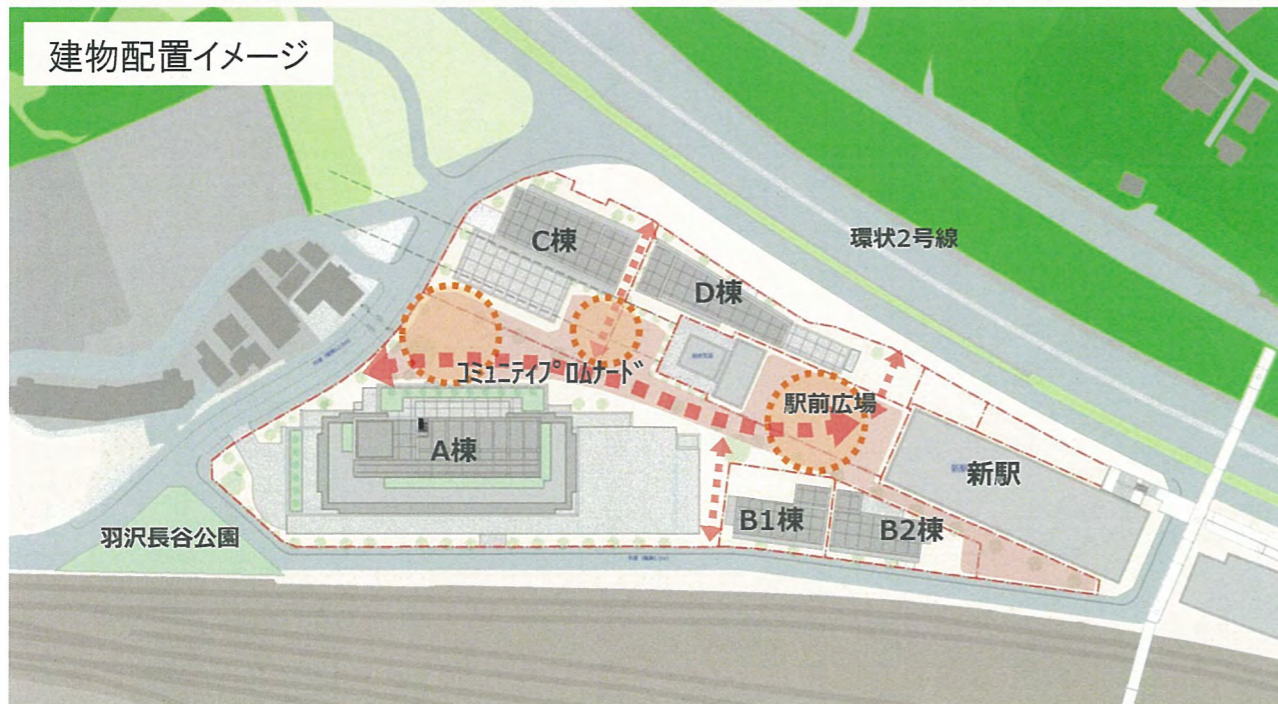
地域の健康を支える医療クリニック

地域の作物等を利用した飲食店

2-3 整備における景観への考え方



※詳細については今後具体的に検討を行っていきます



①中高層部のデザインの考え方

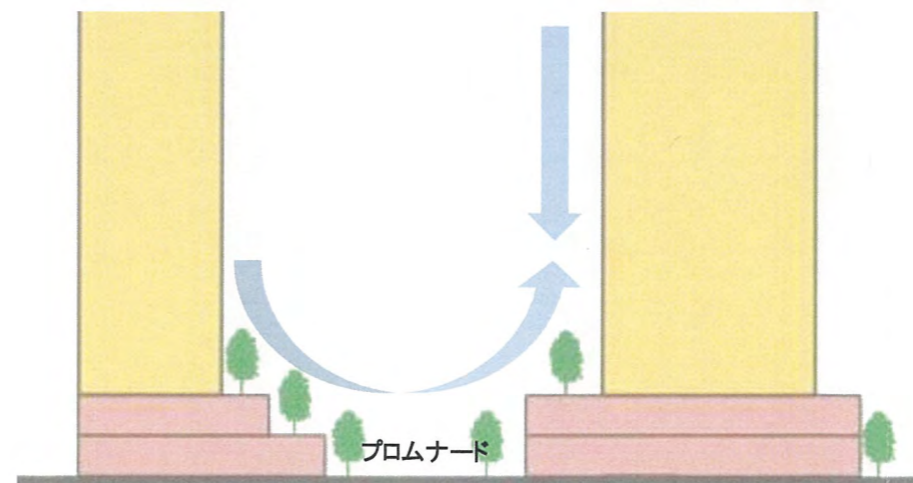
- コミュニティプロムナードに近い低層部は、歩行者目線を意識したヒューマンスケールな空間づくりを行う。
- 超高層となるA棟の壁面は低層部からセットバックさせ、足元空間への圧迫感を低減させるとともに、壁面自体を適度に分節し、繊細な表情づくりを進める。



分節化のイメージ

②周辺環境への配慮の考え方

- 日影については、横浜市日影規制を満足するだけでなく、南側住宅地や環状2号線北側丘陵地などの地区周辺にも極力影響のない建物配置、形状計画とする。
- 風環境の影響については、今後具体的な検証を行いつつ、歩行者空間に対してはその影響度を踏まえ、樹木や低層部のせり出しによる緩衝効果の対策を講じる。



日影チェック図

2:30の日影が北側環状2号線を超えないことが確認できる。

③ 駅前拠点にふさわしい見え方の検証

●A棟においては、高層化によって周辺地域から認識されやすい、新横浜都心における新たな駅前拠点を形成していく。

【ボリュームシミュレーション その1】

① 計画地東側(貨物ヤード反対側)から望む

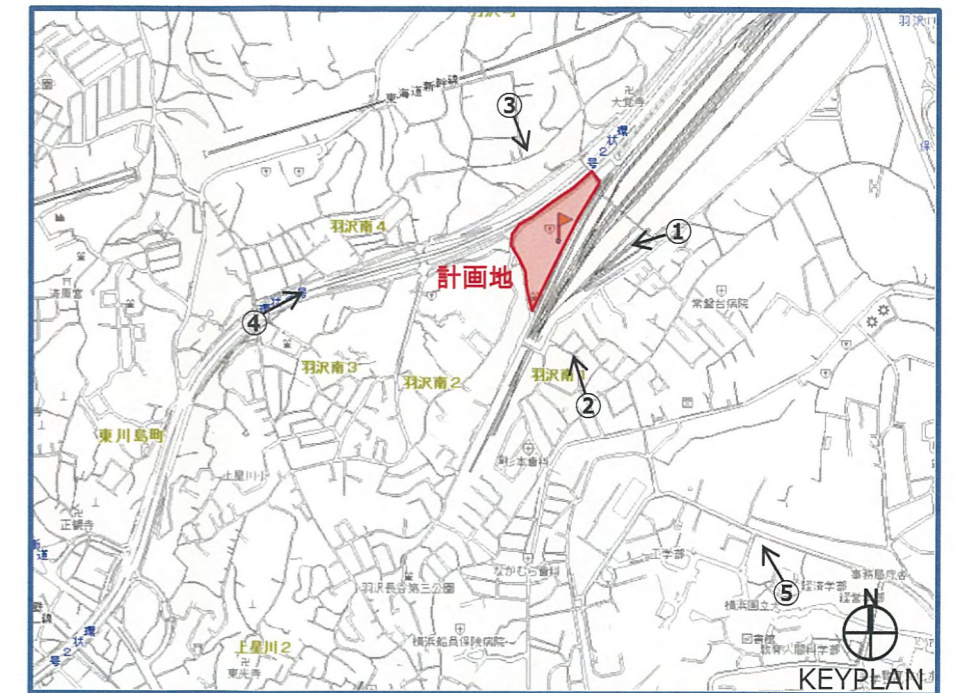


(整備前)

② 計画地南側住宅地より望む



(整備前)



(整備後)



(整備後)

③ 駅前拠点にふさわしい見え方の検証

【ボリュームシミュレーション その2】

③) 計画地北側丘陵地より望む

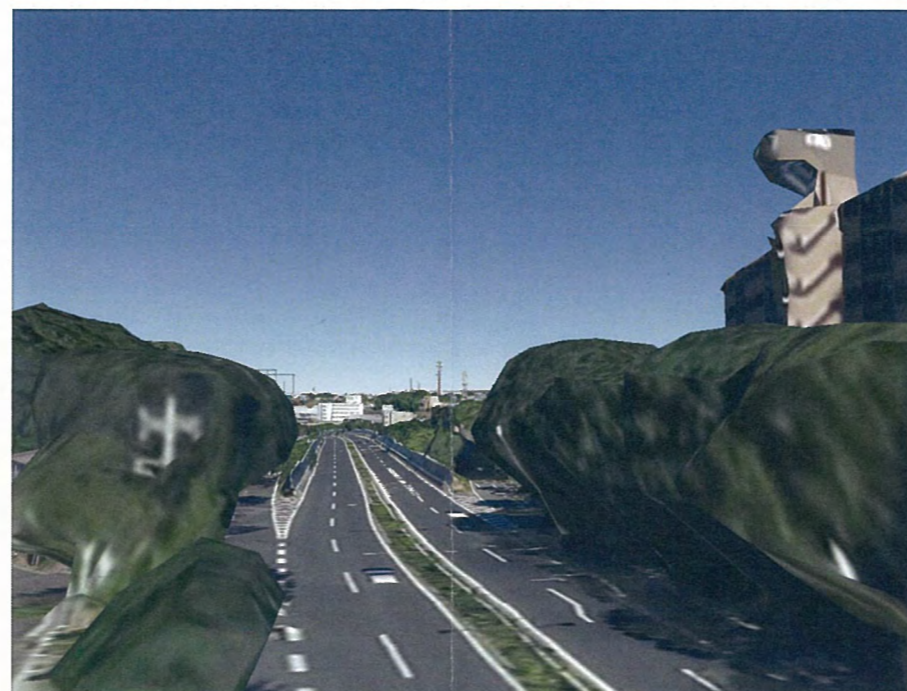


(整備前)

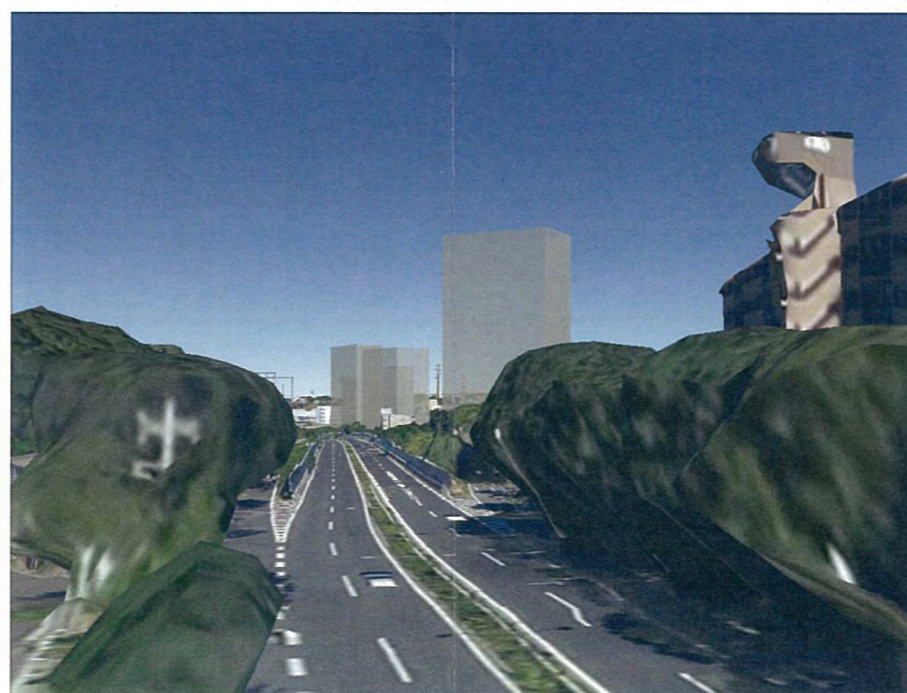


(整備後)

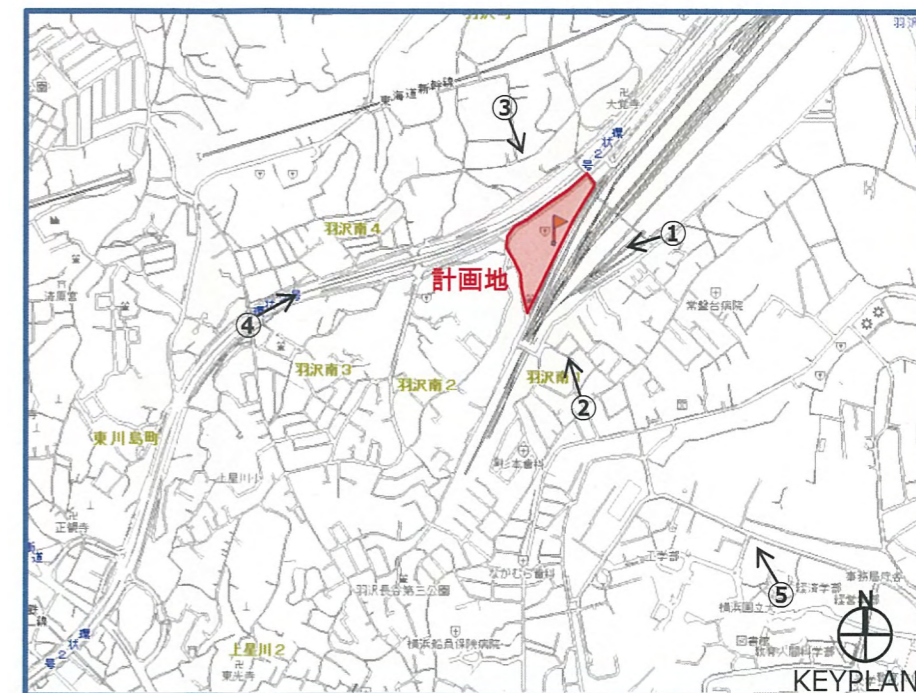
④) 環状2号線(羽沢橋付近)より望む



(整備前)



(整備後)



③ 駅前拠点にふさわしい見え方の検証

【ボリュームシミュレーション その3】

⑤) 横浜国立大より望む(中央部の野外広場から)



(整備前)

⑥) 新横浜プリンス付近より望む



(整備前)



(整備後)



(整備後)



### ◆プロムナードイメージ① (南側住宅地方面より新駅方向にアクセス)



### ◆プロムナードイメージ② (新駅の出口付近からの見通し)



### ④低層部のデザインの考え方

- プロムナードに面する低層部は1～2階程度のヒューマンスケールを意識したボリューム感を基本とする。
- ガラス等による開放的なファサードの採用や、屋外から直接2階にアプローチできる階段等の動線を設けるなど、建物内外の一体的なアクティビティーが感じられる空間づくりを行う。



開放性の高いガラスのファサード

### ⑤緑化計画の考え方

- コミュニティープロムナードなどの歩行者空間にはシンボルツリーや並木、人々の溜りとなる辻々のオープンスペースには多様な樹木を配し、駅前における多様な活動シーンを演出する潤いある空間づくりを行う。
- 地上部緑化だけでなく、建物低層部の屋上緑化や壁面緑化も積極的に取り入れ、建物と一体となった立体的な緑の空間づくりを行い、緑豊かな周辺環境との調和を図る。



駅前での潤いあふれる憩いの空間

### ⑥地区全体の街並み形成の考え方

- 地区内の各敷地が連携して一体的な空地を供出しあうことにより、コミュニティープロムナードを始めとした一体的な低層部の街並みデザインやサイン計画を進める。
- 地区全体として賑わいのある駅前づくり・環境づくりを実現し、適切に維持していくためのタウンマネジメントの構築・推進についても検討する。



店舗等が並ぶにぎわい空間

### ⑦羽沢駅(仮称)デザイン調整会議との整合

- デザイン調整会議での駅舎のデザインや歩行者空間の考え方等の議論との整合・調整をはかりながら、計画を進めていく。